

優しさのチェーン

(原文)

西村 莉緒 (12歳)

神奈川県

洗足学園中学校

私は優しい人が好きです。優しい人と一緒にいると不思議と安心します。これは私だけに当てはまるのではないかと思う。誰でも人の優しさに触れると温かい気持ちになると思います。だから私はより多くの人に優しくしたいと思っています。

私は優しさを十個実践するために、自分が親切だと思う行動をしました。それらの行動をすることによって相手に感謝され、親切って良いなと感じ始めました。だから親切だと考えて家に帰る途中、年配の方に電車の席を譲ろうとしました。今までに何度も席を譲った経験はあったけれども、毎回勇気が必要です。しかし勇気を出して声をかけると「結構です。」と睨まれてしましました。それで親切な行動をしたら感謝されるのが当たり前だと思っていたので私はすっかり意気消沈してしまいました。

家に帰ってもそのことばかり考えてしまいました。「なぜ断られたのだろうか」、「親切にしたのに嫌だったのだろうか。」そういうように考えているうちにそもそも優しさとは何か分からぬことに気が付き、辞書を引きました。「優しい」と引くと「親切である」、「親切」と引くと「人に対する思いやりが強いこと」そして「思いやり」は「その人の身になって親切に考えてあげること」であると分かりました。これを知って、私が今まで親切だと思っていた行動は親切ではなかったことに気が付きました。私はあくまでも十個実践するために行動していく、相手のことなど、ほとんど考えていませんでした。実践出来れば誰でもよかったのです。思い返してみれば年配の方だったとはいえ、元気がよさそうで、席をゆずらなくともよさそうでした。

「優しい」の意味を知って、身の回りに優しい人はたくさんいるのだということにも気が付きました。私のことを心配してくれたり、話をきいてくれたり、物を貸してくれたりなど、挙げたらきりがありません。私にとって優しさのある行動とは、自己満足のために行うのではなく、誰かがより良く過ごすために行うのだと思います。私は誰かに優しくしてもらうことでより良く過ごせているように感じるからです。

優しさがあふれる社会をつくるには他人の優しさに気付き、自分からやさしい行動をとるべきだと思います。私はまだ中学生になったばかりなので、社会全体に働きかけることは難しいです。でも、周りの人に働きかけることはできます。優しいことをしてもらったら自分も同じように他の人にやさしくしようという気持ちに私はなります。他の人もきっとそうではないでしょうか。チェーンメールの

ように優しさのチェーンも広がっていったのなら、自分の知らない人の心まで温かくすることができます。また小さな優しさにも気が付くことで気付かなかったときよりも温かい気持ちになり、まわりにも良い影響を与えることが出来るはずです。すぐには優しさのあふれる社会にはつながらないかも知れないけれども、自分から出来ることをしていくことが優しさのあふれる社会への第一歩だと私は考えます。